

Monthly Report

Vol.81 / 2013 Jan.

大河原町と「地域連携協力」に関する協定書を締結



前列左から2番目が朴澤学長、3番目が伊勢町長

仙台大学は1月23日（水）、大河原町役場で大河原町と「地域連携協力」に関する協定書を締結しました。調印式には、本学から朴澤泰治学長・丸山富雄副学長・藤井久雄運動栄養学科長・渡邊宣隆教職支援システムディレクター・渡邊一郎事業戦略室長の5名が、大河原町から伊勢敏町長・齋一志教育長・長山光一総務課長・高橋弘生涯学習課長・佐々木勝美学校教育専門監兼指導主事の5名が同席し、朴澤学長と伊勢町長とが協定書を取り交わしました。

今回の協定締結は、様々な教育上の諸問題に的確に対応するため、相互に連携協力し、双方の教育の充実・発展に資することを目的としています。事業内容は、①大河原町民の健康づくりに関すること、②児童・生徒の学校生活の支援に関すること、③教員養成や現職教員の研修に関すること、④生涯学習および生涯スポーツ事業への協力に関すること、⑤大学および学校における教育研究面での協力に関すること、⑥その他双方が必要と認める事業について連携協力を進めていきます。【次頁に続く】

目次

大河原町と「地域連携協力」に関する協定書を締結	1
「管理栄養士合格修練会」第4回国家試験直前対策合宿講座	2
中国・台湾・タイからの留学生が日本の伝統文化に触れる	3
楽天4選手が体力測定 DAN DAN DANCE 9thを開催	4
仙台大学監修2013年カレンダー「楽しく！気軽に！カンタンに！トレーニング・エクササイズメニュー」が発行	5
OB・OG・学生の活躍	6

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

調印式で伊勢町長は「大河原町と仙台大学は、これまでも教育実習・学習支援などを通して連携協定を行ってきた。この度、正式に連携協力に関する協定書を取り交わすことによって、小・中学校のみならず、幅広い連携が行われることを期待したい」と話し、朴澤学長は「本学は身体活動をベースに様々な分野への人材の育成という理念で教育活動を行っている。地域連携は、教育・研究とならぶ大学の基本的使命の一つとされており、協定取り交わしは遅れたが、実質的にはこれまでも長年に亘って大河原町とは連携を図ってきており、調印を機会にさらに連携を深め、様々な展開を図りたい」と述べました。

なお、本学における「地域連携協力」に関する協定書の調印は、宮城県・仙台市・柴田町等に続いて9例目となります。



固く握手を交わす朴澤学長(左)と伊勢町長

仙台大学「管理栄養士合格修練会」第4回国家試験直前対策合宿講座



1月13日、14日の二日間（一泊二日）にわたり、仙台大学管理栄養士合格修練会主催による第4回国家試験直前対策合宿講座（菊地志織寮長、服部恵未子第四代塾長、真木瑛事務局長）が仙台大学にて開催されました。本合宿では、残り2ヵ月と迫った国家試験に向けて、東京アカデミー講師による特別講義や国家試験問題を用いたレクリエーション、さらには深夜にまで及んだ集中学習など、多彩なプログラムが用意されました。今回は過去最多の8名の卒業生受験生が参加しました。

開会式では藤井久雄運動栄養学科長からの激励メッセージが紹介され、特別講義では、例年国家試験で最も配点が高いとされながら受験生にとって難しいとされる「臨床栄養学」と「人体の構造と疾病の成り立ち（解剖生理学）」について重点的に行われました。また、特別講義の他にも、体育系大学らしく大縄跳びをしながら問題を解くといった頭と体を使ったレクリエーションも行われました。学習室では深夜2時過ぎまで頑張る受験生の姿もありました。

合宿終了後には、「普段は毎日仕事をしながら、一人で勉強をしなければならない環境ですが、今回合宿に参加して、同窓生同士で母校にて励ましあいながら取り組めてよかった。同窓生全員で合格したいという気持ちが強まりました」や「お互い触発しあえる雰囲気の中で、わからないところを教えてもらったり、教えてあげたりで勉強そのものの楽しさも感じながら頑張れました」等々の感想を参加者より頂くなど、寝食を共にしながらの合格力アップの勉強に拍車がかかりました。

「合格修練会」発足以来、本学国家試験の合格率は過去最高を毎年更新してきました（現在も更新中）。「合宿まで実施して卒業生を支援している大学は聞いたことがありません。大変ユニークであるし、こうした取組みそれ自体が仙台大学のアピールにもなっていくのではないのでしょうか」（業界関係者談）

本年度の管理栄養士国家試験は3月17日（日）に行われます。関係の皆様のご理解ご協力に感謝しながら、管理栄養士合格修練会は引き続き国家試験を受験する卒業生を応援して参ります。

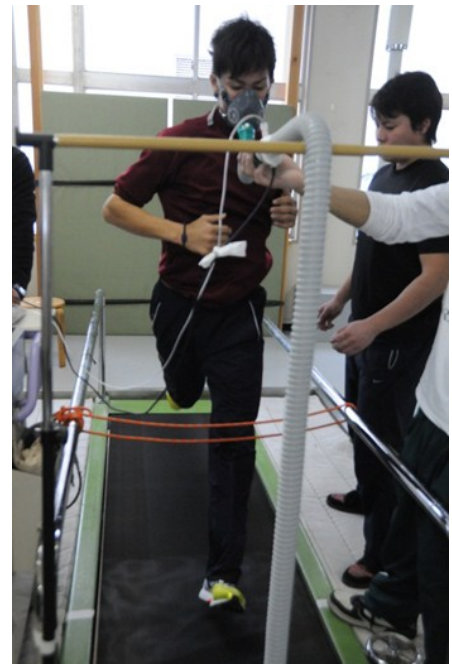
<報告者：仙台大学管理栄養士合格修練会
スタッフ佐藤幸子・堀江知世、主管：早川公康>

プロ野球楽天新人7選手が体力測定

1月14日（祝・月）、プロ野球東北楽天ゴールデンイーグルスの2013年度入団新人7選手（森雄大投手・則本昂大投手・大塚尚仁投手・下妻貴寛捕手・島井寛仁外野手・柿澤貴裕外野手・宮川将投手）が本学を訪れ、身長・体重、最大酸素摂取量（全身持久力の指標）、脚筋力の測定を行いました。

最初に最大酸素摂取量の測定に臨んだ島井選手は「想像以上にきつく、最後は足がついていかなかった。自分の体力を数値で知ることができて良かった。来年はこの結果を上回る数値が出せるようにもっと体力をつけていきたい」。脚筋力の測定を終えた下妻選手は「疲れた。もともと体力には自信がないが、自分の脚筋力のバランスが悪いことを知ることができた。脚筋力の数値が明確になったので、肉離れ等の怪我防止につなげたい」。2013年度ドラフト1位の森選手は「このような科学的なトレーニングは初めてで、良い経験になった。この体力測定の数値結果を踏まえて、怪我の予防やパフォーマンス向上につなげていきたい」。

測定指導を行った本学の高橋弘彦教授（専門：運動生理学）は「測定結果の数値が高いか低いかによって、自分の体が疲れやすいのか、怪我を起しやすいかを知ることができる。1シーズン戦う総合的な体力を自分で高め良いシーズンにしてほしい」とエールを送りました。



最大酸素摂取量を測定する森雄大選手

中国・台湾・タイからの留学生が日本の伝統文化に触れる

－日本文化体験学習「着物をまとう」－



1月24日（木）、日本の伝統文化に触れることを目的として、中国・台湾・タイからの留学生14名が日本文化体験学習「着物をまとう」（主催：仙台大学学生支援センターインターナショナル・ラーニング・サポートグループ）に参加しました。

衣装提供や着付け等は、株式会社鈴乃屋（着物のレンタル事業等を展開）の全面協力を得て、着付け指導や着物の知識等に関する講義は、阿部武彦名誉教授（国文学）が行いました。

留学生たちは、初めて振り袖や紋付袴をまとうことに緊張しながらも、日本の伝統文化に親しみました。

上海体育学院（中国）から留学中の蘆健<ロケン>さん（男性）は「照れくさいが、かっこよくて気に入った。中国に着物はない。日本文化の素晴らしいさを感じる。新しいことを経験し、すがすがしい気持ち」。シーナカリンウィロート大学（タイ）から留学中のスパウィ・サイタレーさん（女性）は「着物は日本映画で観て憧れだった。着物は綺麗で、着心地が良い。帯が少しきつくて動きづらいが、日本文化を理解する上で良い経験になった」とそれぞれ感想を述べました。

阿部名誉教授は「民族衣装をまとうことは、その国の人々の心に触れること。みんなよく似合っていましたね。同じアジアの民族として一衣帯水（いちいたいすい）の思いを深くしました」と話しました。

なお、日本文化体験学習では、引き続き「日本の宗教（禅寺と神社）」・「華道」等を行う予定です。

プロ野球楽天4選手が体力測定を実施

プロ野球東北楽天ゴールデンイーグルスの4選手（岡島豪郎選手・島内宏明選手・北川倫太郎選手・柘田慎太郎選手）が1月26日（土）、本学の最新機器を利用して、「脚筋力」・「皮下脂肪厚」・「最大酸素摂取量（全身持久力の指標）」の測定を行いました。

昨年10月24日に左脚膝蓋骨骨折をし、現在リハビリ中の北川倫太郎選手は「今回の脚筋力の測定目的は、右脚と左脚の筋力の差を知ること。右脚に比べて、骨折した左脚の方が3割程弱いという測定結果が出ました。脚筋力のバランスを左右同じに戻せるよう、地道にトレーニングを行い、1軍に上がって試合に出たい」。また、最大酸素摂取量の測定を終えた島内宏明選手は「今シーズンは、自分の体力の無さを実感した。7連戦・8連戦になると、思うようにバットが振れなかったり、ボールが投げられなくなったりします。シーズンを通して戦える体力を身につけ、レギュラーとして出場機会を増やしたい」と体力測定的重要性と来シーズンへの抱負を語りました。

最大酸素摂取量の測定補助を行った本学卒の難波昇吾さん（なんばしょうご 仙台市健康増進センター勤務/H22年仙台大学大学院修了-H20年体育学科卒-兵庫県立相生高校出）は「体力測定の仕事やプロ選手の体力データを知ることができる貴重な機会。現在、仙台市健康増進センターで高齢者に対して、体力の維持・増進のために運動指導を行っているが、データの見方や分析の仕方を参考にしたい」と意欲的に話しました。



脚筋力を測定する北川倫太郎選手

「DAN DAN DANCE & SPORTS 9th」を開催



今年で9回目を迎えた「DAN DAN DANCE & SPORTS 9th」が1月26日（土）に「えぞこホール（仙南芸術文化センター）」で開催され、約300名の方が来場されました。

冒頭、主催者を代表して本学の山梨雅枝助教（ダンス）より「実行委員をはじめ、学生有志の頑張りや仙台大学の関係各位の温かいご理解・ご協力のお陰で開

催することができた。28組の躍動感あふれるダンスをご覧顶きたい」と挨拶がありました。

トップを飾ったのは、気仙沼市から初出演した「なんでもエンジョイ面瀬クラブ」。“はまらいんや”の曲に合わせてオリジナルダンスを披露しました。仙台大学からは、新体操競技部・体操競技部・ブレイキン同好会・留学生ほか多数の団体が出演し、力強くかつ華麗な演技で会場を魅了しました。また、高校生やその他の団体も個性あふれるダンスを披露しました。

DAN DAN DANCE & SPORTS 9thを終えた実行委員 あべしょうこ 長の安部翔子さん（体育学科4年-宮古商業高校出）は「無事に終わることができて一安心。周りの協力があって成功できた」と感謝の言葉を述べ、「人間的確かな指示を出すことの難しさを実感した。何事にも失敗を恐れず、挑戦していきたい」と率直な感想と今後の抱負を話しました。

山梨助教は「当日の運営を学生たちに安心して任せることができた。責任感を持って取り組んでくれたことが嬉しかった。内容としては、もう少しダンスの出演ジャンルを増やしていきたい。来年は10回目と節目の年。ぜひ盛り上げたい」と意欲的に話しました。

当日ご来場頂きました皆様、「DAN DAN DANCE & SPORTS 9th」の開催運営にご支援ご協力を賜りました皆様に感謝申し上げます。

明成高校県南地区一般入試を本学で初実施



1月28日（月）＜A日程＞及び1月30日（水）＜B日程＞に、本学第五体育館302教室を会場として、本学と姉妹校である明成高校の県南地区一般入試が本学において初めて実施され、28日のA日程には34名、30日のB日程には19名が受験しました。両日、受験生たちは緊張した面持ちで試験に臨みました。

仙台大学監修2013年カレンダー

「楽しく！気軽に！カンタンに！トレーニング・エクササイズメニュー」が発行に



㈱大日本印刷東北から制作依頼を受け発行された、クリーニング店（ホワイト急便）の2013年カレンダー『楽しく！気軽に！カンタンに！できるトレーニングやエクササイズメニュー』に12か月全て本学教員の提案内容が、右記の通り掲載されました。

このカレンダーは、北海道・宮城・山形・福島の4道県で5万部発行後、同クリーニング店の利用者の方々へ販売・配布され、家庭で一年を通し、カレンダーを見て気軽に運動やエクササイズができるように工夫された内容になっています。

学生募集の一助になるようにと、各先生方のご協力のもと制作協力し、橋本副学長に監修していただきました。

1月	美容と健康は正しい姿勢から	全米アスレチックトレーナー協会 公認アスレチックトレーナー 山口 貴久 講師
2月	肩こり予防・解消 ストレッチ&エクササイズ	全米アスレチックトレーナー協会 公認アスレチックトレーナー 高橋 陽介 助教
3月	簡単バリエーション ～バリエーションでほっそりBody～	マンズリークスインストラクター 山梨 雅枝 助教
4月	休休過ごすための心のセルフケア	臨床心理士／認定ストレスカウンセラー 菊地 直子 准教授
5月	美しく楽しくウォーキング	日本体力医学会評議員 宮西 智久 教授
6月	腰痛予防のためのポイント 日頃の生活で腰痛にならないために	理学療法士 笠原 岳人 准教授
7月	熱中症予防 ～暑い夏を健康に乗り切ろう！～	医師・副学長 橋本 実 教授
8月	うたいながら♪カンタン 筋力アップトレーニング	健康福祉学科長／ レクリエーションコーディネーター 小池 和幸 教授
9月	快適に眠るためのコツ ～心地よい眠りで明日も元気に～	医師・副学長 橋本 実 教授
10月	10秒で体を柔らかくする方法	トレーニングセンター企画課 加賀 洋平 課長
11月	ストレッチで冷え症改善	全米アスレチックトレーナー協会 公認アスレチックトレーナー 山口 貴久 講師
12月	免疫力アップ！の食事と運動	管理栄養士／公認スポーツ栄養士 岩田 純 講師

広報室・会計課でも今年のカレンダーとして使用していますので是非ご覧ください。



割引クーポン付のカレンダーは、毎年良く売れ、人気があるそうです。

（宮城県は1部200円で販売）

写真：仙台大学近くの店舗の様子

全日本大学女子サッカー選手権大会 初戦大勝発進



試合前の仙台大学女子サッカー部イレブン



2ゴールを決める活躍を見せた加賀孝子さん

12月26日（水）、兵庫県立三木総合防災公園（兵庫県三木市）で平成24年度第21回全日本大学女子サッカー選手権大会（以下インカレ）1回戦が行われ、仙台大学（東北第1代表）は、愛媛大学（四国第2代表）と対戦しました。

仙台大学は、立ち上がりから主導権を握り、ボールを支配しました。前半14分、落合優子さん（健康福祉学科3年－東北高校出）からの折り返しを泉知里さん（健康福祉学科4年－富岡高校出）が押し込んで、どうしても欲しかった先制点を奪いました。直後の前半15分には、早坂佳苗さん（運動栄養学科1年－聖和学園高校出）のスルーパスから抜け出した門間香奈実さん（体育学科1年－東北高校出）がGKをかわし、そのまま落ち着いて流し込み、2－0。前半24分、相手オウンゴールで3点目。前半35分、コーナーキックから早坂佳苗さんが頭で決め、4－0で前半を折り返しました。

後半に入っても仙台大学の攻撃の手は緩まず、後半25分、右サイドをえぐった相馬みなみさん（体育学科3年－岩手・不来方高校出）からのクロスこいずみしょうこを小泉祥子

さん（体育学科4年－富岡高校出）が鮮やかなゴール。これで5－0となりました。後半36分、早坂佳苗さんからのクロスかがこうこを加賀孝子さん（スポーツ情報マスメディア学科1年－ジェフユナイテッド市原・千葉レディース出）がボレーシュートで決め6点目。さらに後半39分、加賀孝子さんがこの日2点目となるゴールを決め、7－0と大量リード。後半40分、GKが弾いたこぼれ球いわざきあんなを岩崎杏奈さん（スポーツ情報マスメディア学科2年－前橋育英高校出）が押し込み、8－0。終始相手を圧倒し続けた仙台大学が大勝で見事初戦を突破しました。

インカレ初ゴールを決めた小泉祥子さんは「インカレの舞台で得点を決めることができ嬉しい」と笑顔で話し、「次も積極的に仕掛けてゴールを決めたい」と次戦に向けて意欲を見せました。

黒沢監督は「早い時間帯に先制点を取ったことが大きい。これでチームに勢いがついた」と話し、「次の姫路日ノ本短期大学戦は厳しい試合が予想されるが、攻守の切り替えを素早く行い、粘り強い守備で勝ちにこだわりたい」と次戦へ向けての抱負を述べました。

【次頁に続く】

全日本大学女子サッカー選手権大会 ベスト8進出ならず



※写真上：後半20分、加賀孝子さん(赤いユニフォーム・背番号20)のヘディングシュートがゴールポストに阻まれる

※写真中：後半ロスタイム、小島ひとみさん(赤いユニフォーム・背番号18)が頭で合わせるが、GKがパンチングで阻止

※写真下：試合に敗れ、涙を流す選手を励ます黒沢監督(左端)

12月28日(金)、冷たい雨の降りしきる中、兵庫県立三木総合防災公園(兵庫県三木市)で平成24年度第21回全日本大学女子サッカー選手権大会(以下インカレ)2回戦が行われ、仙台大学(東北第1代表)は、ベスト8進出をかけて姫路日ノ本短期大学(関西第2代表)と対戦し、1点を争う緊迫した好ゲームとなりま

した。

前半立ち上がりはお互いに流れをつかもうとしたため、落ち着いたゲーム展開で進みました。前半23分にゲームは動きました。相手のペナルティーエリア外えんどうほなみからのロングシュートが守護神・遠藤穂奈美さん(体育学科3年一東北高校出)の頭上を越えてゴールへ吸い込まれました。先制点を奪われ、相手に流れが移るかと思われましたが、仙台大学もしっかり食らいついて、対等に戦い、前半を0-1[前半シュート数：仙台大学2本、姫路日ノ本短期大学4本]で折り返しました。

ハーフタイムで黒沢監督は「慌てずに、状況をしっかり確認して、ボールをつないでいこう」と指示。後半かがこうこは加賀孝子さん(スポーツ情報マスメディア学科1年一ジェフユナイテッド市原・千葉レディース出)が広い視野と精度の高いパスで攻撃の起点となりました。

最大のチャンスは後半20分、岩崎杏奈さんいわさきあんな(スポーツ情報マスメディア学科2年一前橋育英高校出)からのコーナーキックを加賀孝子さんが頭で合わせましたが、ボールは惜しくもゴールポストにあたり、同点とはなりません。後半ロスタイムにも岩崎杏奈おじまさんの正確なコーナーキックから小島ひとみさん(健康福祉学科2年一聖和学園高校出)がヘディングシュートを試みますが、GKのパンチングで弾かれ、得点にはなりません。試合は0-1[後半シュート数：仙台大学7本、姫路日ノ本短期大学4本]で惜敗。残念ながらベスト8進出はなりません。

試合終了後、「負けて悔しい。現状に満足せず、普段から良い環境でサッカーをさせて頂いているという感謝の気持ちを結果で示したかった。後輩達には、来年のインカレでもっと良い結果を残してほしい」(やまだあや)

(山田綾主将、運動栄養学科4年一東北高校出)。「この大会を通して、選手達のメンタル面・技術面での成長を実感している。来年のインカレにつながる収穫の多い大会だった」(本多コーチ)。「ベスト4を目標に掲げていたので、この結果は悔しい。後半は幾度もチャンスを作ったが、ゴールを決めることが出来なかった。こぼれ球でも貪欲にゴールをねらいにいくという執念が感じられず、まだまだ気持ちが足りない。もっとシュートやクロスの精度を高めるトレーニングを積み重ねて、この悔しさを来年のインカレにつなげたい」(黒沢監督)。とそれぞれに無念さや悔しさを滲ませながら話しました。

これからも高い目標に向かって前進し続ける仙台大学女子サッカー部への熱い応援を宜しくお願い致します。

サッカー部副主将 木内瑛さん、「JFLブラウブリッツ秋田」に入団内定



新入団選手の記者会見(1月17日)の様子
写真上段右端が木内瑛さん
(写真提供：ブラウブリッツ秋田)



木内さんは、秋田・西目高校サッカー部3年時に全国高等学校サッカー選手権大会に出場し、主将を務めました。本学サッカー部2年時に総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントで3位に貢献、1・2年時に北海道・東北選抜に選ばれ、4年時には副主将を務めました。

木内さんは「大学1・2年時はレギュラーとして活躍できたが、3・4年時は怪我が多く、思うような活躍ができずに苦しい思いをした」と語り、「1月22日(火)からチームに合流するが、練習から自分の持っている力を100%出していきたい。開幕スタメンが勝ち取れるよう頑張りたい」と意欲を見せました。

おおはしよしたか

JFLではAC長野パルセイロ主将の大橋良隆さん<2年連続(2011年・2012年)JFLベストイレブン受賞、H17年体育学科卒一浦和南高校出>がチームの中心選手として活躍しています。木内さんと大橋さんの対戦が非常に楽しみです。

1月17日(木)、本学サッカー部副主将の木内瑛さんきのうちよう(体育学科4年一秋田・西目高校出、DF、178cm/70kg)のサッカーJFL「ブラウブリッツ秋田」への入団が内定しました。本学サッカー部からブラウブリッツ秋田への入団は、大金祐輔さんおおがねゆうすけ(H22年体育学科卒一福島・湯本高校出)以来2人目となります。

ボブスレー・リュージュ・スケルトン部 米倉理絵さん、全日本スケルトン選手権で3位入賞と大健闘

12月23日(土)、長野市ボブスレー・リュージュパーク(スパイラル)で2012年全日本スケルトン選手権(女子)が行われ、本学ボブスレー・リュージュ・スケルトン部の米倉理絵さんよねくらりえ(運動栄養学科4年一利府高校出)が3位入賞と大健闘を見せ、自身初の表彰台を獲得しました。

前日の公式練習では6位とタイムが伸びなかった米倉さんでしたが、本番では、一本目56秒34と4位につけ、二本目56秒12と自己ベストを更新。2回の合計タイムが1分52秒46で、見事3位入賞を果たしました。

全日本スケルトン選手権で6位が最高成績だった米倉さんは「全日本で表彰台に立つことを目標に頑張ってきたので、すごくうれしい。」「公式練習では調子が悪かったが、本番ではあまり深く考えず、思い切って今までにないくらいの最高の滑走ができた。」と笑顔で振り返り、「今後も競技を続ける。オリンピックに出場したい」と抱負を語りました。

私はこの4年間スケルトン競技にのめり込んできました。練習を行うたびに滑走技術が上がり、100分の1秒でもタイムを伸ばそうと努力してきました。時にはうまくいかず、壁にぶち当たったこともありましたが、たくさんの方々の支えがあり、今回、全日本選手権で3位入賞という成績を残すことができました。スケルトンという競技は私にとって、自らを大きく成長させてくれた、かけがえのないスポーツです。

運動栄養学科4年 米倉理絵



<取材日：1月23日(水)、取材場所：仙台大学ボブスレープッシュトラック>

ボブスレー・リュージュ・スケルトン部 全日本ボブスレー選手権 3位入賞



左から近藤さん、渡辺さん、三上さん、進藤さん

12月24日（日）、長野市ボブスレー・リュージュパーク（スパイラル）で2012年全日本ボブスレー選手権男子4人乗りが行われ、本学ボブスレー・リュージュ・スケルトン部の三上大輝さん（体育学科4年一みかみだいきしんどうりょうすけ）、進藤亮祐さん（運動栄養学科4年一わたなべみずき仙台商業高校出）、渡辺瑞基さん（体育学科4年一こんどうやすゆき札幌山の手高校出）、近藤康行さん（スポーツ情報マスメディア学科1年一兵庫・松陽高校出）のチームが3位に入賞する健闘を見せました。

一本目で54秒27と2位につけ、二本目で54秒36のタイム。一本目に3位であったチームが、二本目には54秒26とタイムを上げ、合計タイム0.06秒という僅かな差で逆転を許しました。

パイロットの三上さんは「コース取りの悪さと操作ミスが重なり、速度が落ちたことが敗因」と悔しい表情を浮かべながら振り返り、「目標は2位だったので、3位という結果は悔しいが、表彰台に立つことができ嬉しい。大学生活最後に良い思い出ができた」と話しました。

<取材日：1月23日（水）、

取材場所：仙台大学ボブスレープッシュトラック>

今回、全日本選手権大会に仙台大学として、4年生の先輩方とチームを組んで戦えたことは本当に楽しく、良い経験になったと思います。

4年生にとっては、最後の全日本選手権大会だったので、最後に表彰台に4人で立つことができ嬉しかったです。

来年からは4年生が卒業されるので、自分たち新チームで先輩方に追いつけるように頑張りたいと思います。

スポーツ情報メディア学科1年 近藤康行

この4年間は最高の4年間でした。良いことも悪いこともありましたが、今では全てが忘れられない思い出です。今大会では3位という結果でしたが、正直悔しいです。

もうこのメンバーでチームを組めませんが、最高のチームでした。卒業後、スケルトンでオリンピックを目指して北海道で活動します。仙台大学で培ったことを今後の競技生活に活かしていきたいと思います。

体育学科4年 渡辺瑞基

私がボブスレーに出会ってから4年が過ぎた。気がついたらもう卒業だ。ボブスレーには様々な経験をさせてもらった。3度の全日本選手権入賞やUSA/CANADAでの国際大会出場、どれも私には初めての経験だった。

仙台大学での4年間は私を大きく成長させた。ボブスレー部で培った経験を生かし、卒業後は消防士として市民の為に貢献したい。そしてチャンスがあればそれを生かし冬季オリンピックを目指したい。

「創意工夫」は人を成長させる。できないのではなく、思いつかなかったただけだ。どこかに良い方法はあるはず。だと後輩に伝えたい。

体育学科4年 三上大輝

4年間の集大成が発揮できた大会でした。もっと上に行くぞという気持ちで試合に臨んでいたのが3位という結果に満足はしていませんが、初めてチームを組んだ4人でメダルを取れたということを誇りに思っています。

学生生活での競技は今回の大会で終わりですが、ボブスレー部で培ってきた人間力や集中力はこれからの人生でも活かしていきます。また、後輩たちには更に良い結果が出せるように、これからもトレーニングに励んでほしいです。私も負けないように頑張ります。

運動栄養学科4年 進藤亮祐

2013年女子世界フロアボール選手権大会アジアの日本代表チームに 仙台大から3名選出



左から朴澤学長、泉さん、松浦さん、宇野澤さん、高崎部長

2013年2月20日（水）～24日（日）まで韓国・ポチョン市で開催される2013年女子世界フロアボール選手権大会アジアの日本代表チームに仙台大から松浦里紗さん（健康福祉学科4年－福島西高校出）、泉幸さん（健康福祉学科4年－米沢中央高校出）、宇野澤衣里さん（体育学科2年－宮城広瀬高校出）の3名が選出されました。

1月31日（木）、松浦さん・泉さん・宇野澤さんの3名と高崎義輝部長が学長室を訪れ、同選手権大会の日本代表チームに選出されたことを報告。朴澤学長から選出のお祝いの言葉と激励を受け、学生たちは初の国際大会へ挑む決意を新たにしました。

同選手権大会への参加国は、日本・韓国・オーストラリア・シンガポールの4ヶ国。日本代表チームは、2月19日（火）に韓国へ渡り、初戦となるシンガポール戦に備えます。世界の舞台上で活躍する仙台大学生3名にご期待ください。